

1 部門目標

- ・各モダリティにおいて専門性を高めるため、学会・研究会への参加を進める。
- ・5Sを意識した、機器・器材および、物品管理の確実な実践。
- ・医療安全研修への全員参加及び、医療安全管理委員会への出席。

2 業務体制・スタッフ

業務は、日勤業務、準夜・深夜勤業務（1名）、当直・日直業務（1名）の体制で行っている。

この体制下、一般撮影室2室・CT室1室・X線テレビ室2室・乳房撮影室1室・MRI検査室1室・血管撮影室1室・核医学検査室1室・ポータブル撮影装置3台・手術室イメージ2台、リニアック1台、治療用CTシミュレータ1台を、常勤の放射線技師13名、非常勤放射線技師4名(会計年度任用職員)、受付業務4名(会計年度任用職員)、総勢21名のスタッフで対応している。

3 業務実績

	令和元年	令和2年	令和3年	率(R2→R3)
CT	8,965	9,452	9,800	3.8%
MRI	2,478	2,363	2,668	15.1%
核医学検査	360	228	209	-8.3%
血管撮影	276	434	554	27.9%
乳房撮影	1,245	1,019	753	-26.1%
一般撮影(他)	31,198	29,580	25,814	-12.7%
合計	44,522	43,076	39,798	-7.6%

4 1年間の総括

令和3年度の総検査件数は39,798件で、前年度に比べ3278件減少(-7.6%)した。令和3年度より一般撮影(他)の集計方法の変更に伴い総検査件数が減少したが、一般撮影(他)を除いた検査数は前年度に比べ488件の増加(3.6%)であった。令和3年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の第4波、第5波、第6波があり、入院及び外来の受入など診療状況が度々変更となる中、検査件数を維持すること出来た。

各モダリティ別の検査件数は、CT:9,800件、MRI:2,668件、核医学検査:209件、血管撮影:554件、乳房撮影:753件、一般撮影他:25,814件で、令和2年度と比較してそれぞれ357件増(+3.8%)、315件増(+13.4%)、19件減(-8.3%)、121件増(+27.9%)、226件減(26.1%)、3,766件(-12.7%)減であった。CT、MRIは検査件数の増加が続いている。血管撮影は令和2年度の循環器内科医の増員以降は検査件数が大幅に増加し、経皮的冠動脈形成術(PCI)の件数も234件(79件、50.1%増)となった。乳房撮影は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による受診控えも影響し検査件数が大幅に減少した。

5 今後の目標

引き続き、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染状況に応じた検査体制の構築を行うと共に、感染症対策を優先しながら安心・安全な検査を行っていく。

脳神経外科の新設に伴い、新たな血管撮影装置の導入を進めると共に院内他部門と連携をしながら診療開始に向けた準備を進める。また、スタッフ教育を進めるため他院での研修も含め、計画的に実施する。

新病院に向けて、放射線関連の検査室及び検査機器の整備の方向性が示されており、最新の検査機器の情報収集を行うと共に、検査技術の修得を目的とした学会、研究会等への参加を進め、科内勉強会も開催しながらスタッフの教育を進めていく。また、検査機器の更新も新病院での導入計画と検査機器の安定稼働などを優先しながら計画的な更新スケジュールの立案を行っていく。

令和3年4月に施行された改正電離放射線障害防止規則に対応するため、放射線業務従防護メガネの利用促進および防護メガネ内側での適切な線量測定を引き続き実施していく予定である。